

プレスリリース

グラスヒュッテ、2026 年 9 月

トリプルスプリット

究極のクロノグラフを彩る斬新なカラーコンビネーション

「トリプルスプリット」は、現代のクロノグラフ製造の分野における新たな基準を打ち立てたタイムピースです。最長 12 時間までの中間タイム、比較タイム、積算タイムの計測を目的として開発され、フライバック機能も兼ね備えるこのスプリットセコンドクロノグラフは、**2018 年**の発表以来、唯一無二の存在であり続けています。そして今回、プラチナ **950** 製ケースにロディウムカラーのダイヤルとより深みのあるグレーのサブダイヤルを組み合わせた世界 **100 本**限定の「トリプルスプリット」が登場します。



プラチナ 950 を纏った「トリプルスプリット」の新作

2018 年の発表以来、「トリプルスプリット」は、最長 12 時間にわたり、中間タイム、比較タイム、積算タイムを計測できる世界唯一のスプリットセコンドクロノグラフとして、機械式クロノグラフの分野における比類なき地位を守り続けています。グレーダイヤルを備えたホワイトゴールド 750 製の初代モデルに続き、2021 年にはブルーダイヤルを備えたピンクゴールド 750 製の「トリプルスプリット」が発表されました。そして今回、プラチナ製のケースとロディウムカラーのダイヤルを特徴とし、コントラストが映えるグレーのサブダイヤルでアクセントを効かせた、3 つめのエディションとしてこのシリーズに加わりました。これまでと同様、世界 100 本限定での登場となります。

短時間計測における 2 つの新たな次元

ラトラパント機能をミニッツカウンターとアワーカウンターにまで拡張したことにより、このクロノグラフは 1 分から最長 12 時間までの計測が可能となり、用途の幅が飛躍的に広がりました。例えばマラソン大会では、「トリプルスプリット」を使用することで、何人ものランナーの中間タイム（例：10km、20km、30km 地点などでのタイム）が記録でき、さらに、優勝者だけでなく 2 位の選手のフィニッシュタイムまでもを同時に割り出すことができます。また、ハイクテク装備が搭載されていないクラシックカーでのドライブの際には、走行をより楽しむための使い方が考えられます。例えば、参道を走行中、峠の頂上などの特定地点までの経過時間や、各区間の走行時間を、時計を止めることなく次々と個別に計測できます。さらに、累積時間測定機能を利用することで、休憩時間や停車時間などを考慮に入れつつ、総運転時間を算出することもできます。

「トリプルスプリット」はさらに、フライバック機能も備えています。4 時位置のプッシュボタンを 1 回押すだけで、進行中の計時を停止し、現在動作中のすべてのクロノグラフ針とラトラパント針をゼロリセットし、プッシュボタンから指を離すと即座に新たな計時が再開されます。

「トリプルスプリット」の仕組み

スプリットセコンドクロノグラフには機械式記憶機構が備わっており、これにより、進行中の計時を中断することなく中間タイムを記録することができます。従来のスプリットセコンドクロノグラフでは、最大 60 秒までの中間タイムや比較タイムの計測が可能ですが、「トリプルスプリット」には、分と時間を計測するためのラトラパント針がさらに 2 組取り付けられています。

初期状態では、3 本のブルー仕上げのラトラパント針が、それぞれのロディウム仕上げのクロノグラフ針と重なり合っています。2 時位置のプッシュボタンを押して計時を開始すると、すべての針が一斉に同期して動き始め、10 時位置のラトラパントプッシュボタンを押して中間タイムの計時を停止させるまで動き続けます。ラトラパントプッシュボタンを押すと 3 本の青焼きのラトラパント針が停止し、中間タイムを表示する一方、クロノグラフ針は動き続け、タイムを計測し続けます。ラトラパントプッシュボタンをもう 1 度押すと、ラトラパント針がクロノグラフ針に追いつき、両方の針が同期して動き続けます。

明快に構造化されたダイヤルデザイン

各表示が絶妙なバランスで秩序立てられたダイヤルのレイアウトは、トリプルスプリットが備える極めて複雑なメカニズムを精緻に描き出しています。メインダイヤル上の最も大きな表示スペースは、クロノグラフ秒針とラトラパント秒針に割り当てられています。4 時位置のサブダイヤルに割り当てられているのは、1 分が経過した瞬間に 1 目盛りだけ即座に進む精緻なジャンピングミニッツカウンターです。

12 時位置のアワーカウンターはミニッツカウンターよりわずかに小さめになっている一方、その向かい側の 6 時位置に配されたランゲおなじみのアップ/ダウン パワーリザーブ表示は、表示部分の中で最も小さなスペースを占め、55 時間のパワーリザーブの残量を示します。スモールセコンドは、8 時位置のサブダイヤルとして配置されています。ストップウォッチ機能による経過時間の計測範囲内で外周のタキメータースケールを使用することで、1000m の距離における平均速度を算出することも可能です。

さりげなくニュアンスを感じさせるカラーパレット

このプラチナ 950 製の限定モデルでは、特徴的なデザインがロディウムカラーを纏ったダイヤルで初登場します。グレーのサブダイヤル、夜光塗料が塗布された時針と分針、青焼きのラトラパント針に、アワーカウンター、ミニッツカウンター、アップ/ダウン表示部に施された赤いアクセントが組み合わされ、美しいコントラスト、優れた機能性、そしてメカニカルな美しさが相互に作用しながら調和しています。

ケースは直径 43.2 mm、厚さ 15.6 mm です。クールトーンのプラチナ製ケース、ロディウムカラーのダイヤル、より深みのあるグレーのサブダイヤルが織りなすテクニカルでエレガントな配色の時計に合わせたのは、プラチナ製のフォールディングバックルが備わったダークブラウンのアリゲーターベルトです。



新作「トリプルスプリット」を駆動する自社製キャリバーL132.1

先駆的な構造を備えた専用の自社製キャリバー

自社製キャリバーL132.1は、時計製造の限界を越えようと努力し続けるA.ランゲ&ゾーネの志を象徴するものであり、クロノグラフ製造におけるマニファクチュールの技術力を示しています。この時計には、精密時計製造における技術的金字塔である、唯一無二のトリプルラトランプ機構が搭載されています。この機構は、3本のクロノグラフ針と3本のラトランプ針が、スタート、ストップ、キャッチアップ、ゼロリセットといったそれぞれの機能を正確に果たすよう設計されています。時計師にとって、歯車、レバー、バネ、クラッチ、ジャンパーを複雑に組み上げていく作業には、究極の専門性が求められます。きわめて複雑に、時には枝分かれしながら連なる切り替え機構のすべての部品は、互いに完璧に調和していなければなりません。それは、忍耐強さ、細部への妥協なきこだわり、そして極限の精度が求められます。まさに時計製造における『果てなきマラソン』のようなものなのです。

ラトランプ針を停止させたり、ミニッツカウンターを作動させたりすると、どうしてもムーブメント内に摩擦損失が発生してしまいます。こうした状況であっても、調速機に十分な動力が継続的に供給されることを可能にしたのがA.ランゲ&ゾーネが開発した脱進機構です。2005年に特許を取得したこの装置は、秒針軸とミニッツカウンター軸における摩擦の多い動作を切り離すことで歩度の安定性を保ちます。アワーカウンター軸は回転速度が遅いため、摩擦が大幅に少ないことから、このような機構を必要としていません。

並外れた複雑機構とメカニカルな美しさ

サファイアクリスタルのケースバックからは、ランゲならではのスタイルで精巧な仕上げが施されたクロノグラフムーブメントの並外れた複雑さと構造的な奥行き感を存分に堪能することができます。合計567点もの微細なパーツが完璧な調和を奏で、一つの完成された世界を構成しています。レバー、バネ、ロッカーの上面にはヘアライン仕上げ、外周部分には面取りが施されています。とりわけ、鋭角な内側の角の面取り/ポリッシュ仕上げには、極めて高度な技術が要求されます。グラスヒュッテストライプを飾った未処理の洋銀製ブリッジには5つのビス留め式ゴールドシャトンが配され、ハンドエングレービング入りテンプ受けが組み合わされることで、この精密な機械を完璧なものに仕上げています。これらの仕上げもまた、技術的な洗練さと紛れもなく釣り合ったものとなっているのです。

製品開発担当ディレクターのアントニー・デ・ハスは次のように説明します。「今日に至るまで、『トリプルスプリット』は唯一無二の存在であり続けています。秒、分、時の3つのラトランプ機構を支えているのが、完全自社開発された、ランゲが誇る最も精巧で最も美しいムーブメントのひとつ、キャリバーL132.1です。究極のレベルの専門性、忍耐力、手先の器用さが求められるその構造の奥深さが、時計師とムーブメントとの間に並外れた絆を生み出します。同時に、快適な装着感を損なわないムーブメントの薄さにこの機構を収めることも大きな挑戦でした。だからこそ、このムーブメントは、クロノグラフの分野においても独自の道を常に歩み続けるという私たちの強い意志を物語っているのです。」

この「トリプルスプリット」の新作は、9月最初の週末にハンプトンコート宮殿で開催される今年の「コンクール・オブ・エレガンス」で発表されます。

A.ランゲ&ゾーネについて

ドレスデン出身の時計師フェルディナント・アドルフ・ランゲは、1845年に時計工房を設立し、ザクセン高級時計産業の礎を築きました。彼が製作した価値の高い懐中時計の数々は、今でも世界中のコレクターたちの垂涎的となっています。第二次世界大戦後、A.ランゲ&ゾーネは東ドイツ政府により国有化され事実上消滅、一時はその名が人々の記憶から消えてしまうかと思われました。しかし1990年、フェルディナント・アドルフ・ランゲの曾孫ウォルター・ランゲがブランドを復活させます。現在では、ゴールドまたはプラチナのケースを使った腕時計を中心に、毎年数千本のみ製作しています。A.ランゲ&ゾーネの時計には必ず、自主開発され、手作業で入念な装飾と二度組みを行ったムーブメントが搭載されています。1990年以降に開発された自社製キャリバーは77個を数え、A.ランゲ&ゾーネは世界でも最高峰の地位を確立しました。その代表作には、一般モデルとして初めてアウトサイズデイトを搭載したランゲ1や、瞬転数字式時刻表示を搭載したツァイトヴェルクがあります。まれに見る複雑機構を搭載するミニッツリピーター・パーペチュアル、ランゲ1・トゥールビヨン・パーペチュアルカレンダー“ルーメン”、トリプルスプリットは、受け継がれてきた時計作りの技をさらに高めようとするA.ランゲ&ゾーネの真摯な姿勢を体現した時計です。2019年には軽快さとエレガンスが共存するステンレススチール製オデュッセウスを発表し、A.ランゲ&ゾーネの歴史に新たな章を開きました。

プレス窓口

リシュモンジャパン株式会社 A.ランゲ&ゾーネ マーケティング コミュニケーション
電話：03-4572-4520 | メール：presse@lange-soehne.com

インターネット

alange-soehne.com | facebook.com/langesoehne | youtube.com/user/alangesoehne
instagram.com/alangesoehne | #alangesoehne | #langesaxonia | #triplesplit | #neverstandstill

画像ダウンロード

press.alange-soehne.com

トリプルスプリット		Ref. 424.025F
ムーブメント	ラング自社製キャリバーL132.1、手巻き、手作業による組立ておよび装飾、五姿勢調整済み、未処理の洋銀製プレートとブリッジ、ハンドエングレービング入りテンプ受け	
ムーブメント部品数	567	
石数	46	
ビス留め式 ゴールドシャトンの数	5	
脱進機	アンクル脱進機	
調速機	耐震機構および偏心錘付きテンプ、自社製ヒゲゼンマイ、毎時21,600振動、スワンネック形バネと側面にある調整用ビスにより微調整可能なビートエラー修正機構	
パワーリザーブ	完全巻上げ状態で 55 時間	
機能	時、分表示、ストップセコンド機能搭載スモールセコンド、1/6秒から 12 時間の間に追加および中間タイムを計測するトリプルラトラパント付きフライバック クロノグラフ、正確にジャンプするクロノグラフとラトラパントのミニッツカウンター、継続的に積算するクロノグラフとラトラパントのアワーカウンター、タキメータースケール、パワーリザーブ表示 AUF/AB（アップ/ダウン）	
操作系	ゼンマイ巻上げおよび時刻調整用リユーズ、クロノグラフ操作用プッシュボタン 2 個、ラトラパント機構操作用ボタン 1 個	
ケース寸法	直径：43.2 mm、厚さ：15.6 mm	
ムーブメント寸法	直径：30.6 mm、厚さ：9.4 mm	
風防&ケースバック	合成サファイアクリスタル（モース硬度 9）	
ケース	プラチナ 950	
ダイヤル	シルバー925、ロディウム/グレー	
針およびアプライドインデックス	ロディウム仕上げゴールド 750 製の時針・分針（夜光性）、スモールセコンド、クロノグラフミニッツカウンター。ロディウム仕上げスチール製のパワーリザーブ針、クロノグラフ秒針、クロノグラフアワーカウンター。ブルー仕上げスチール製ラトラパント秒針、ラトラパントミニッツカウンター、ラトラパントアワーカウンター。ロディウム仕上げゴールド 750 製アプライドインデックス、3 時、6 時、9 時、12 時に夜光インデックス	

ベルト	手縫いのアリゲーターレザーベルト、ダークブラウンにグレーのステッチ入り
バックル	プラチナ 950 製クイックリリース フォールディングバックル
限定数	100 本、限定番号刻印入り